国際教養学部の設立に伴った多言語ドキュメントの対応

－言語バリアーフリー環境の構築－

潘 健民，海老原 崇，川嶋 健太郎，三橋 大輔
早稲田大学メディアネットワークセンター
{kevinp, ebihara, kawaken, mhashi@aoni.waseda.jp}

１．はじめに

早稲田大学では従来, 別科の国際部（主に, 交流協定を結んだ欧米の大学からの交換留学生の受け入れ先）を除いては，日本語のみを授業言語としてきた．1998 年に独立大学院であるアジア太平洋研究科が設立され，英語による学位の取得が可能となった．その後に設立された国際情報通信研究科および情報生産システム研究科においても，日本語によらずに学位が取得可能である．しかしながら，これらの独立大学院では独自のシステムを構築し運営している他の学部と違って，メディアネットワークセンターが全学に提供するサービスをほとんど利用してこなかった.

2004 年度から国際教養学部を新設した．国際教養学部学生は３～４割が海外からの留学生で構成されている．将来的には約半数を留学生が占めることを予定している．同学部では，英語と日本語を教育における共通言語としており，英語によって日本の大学で学士学位を取得することが可能となった．早稲田大学メディアネットワークセンターでは，国際教養学部の新設に伴って，専門チームを設立し，学生のニーズに合わせて，ドキュメントの多言語化を進めている．今まで日本語のみで行われてきた情報教育を、英語でも同様なレベルで日本語を話さない留学生を対象に実施できるようにしたい。

２．対象学生を知る

早稲田大学では，毎年理工学部を除くすべての学部新入生に対して「新入生セミナー」と呼ばれる講習会を実施してきた．この講習会の目的は主に次の二点であった.（参考文献の[1]及び[2]を参照）

- ネットワーク社会でトラブルを起こさない，あるいはトラブルに巻き込まれないための情報倫理教育
- 大学入学以前にパソコンに触れる機会が少なかった学生を対象とした簡単なパソコン利用のガイダンス

国際教養学部の新入生では，日本人学生とある程度英語の教養を有する留学生に二区分することができる．日本人学生には一般の新入生セミナーを受講させ，留学生には英語新入生セミナーを受講させることにした.（詳細は、http://www.mnc.waseda.ac.jp/mnsemi04/）

英語新入生セミナーに出席した留学生数は 34 人．英語の Native speaker は 2 人で，カナダ生まれ, カナダ育ち日系人女性一人がいた. そのほかの留学生の出身国は，中国 10 数人, 韓国 10 数人であった. 他には, インドネシア, アイスランド，カナダが一人ずつであった. メディアネットワークセンターは，セミナー

実施と同時に，国際教養学部新入生にアンケート調査を実施した．

３．　アンケート結果

アンケートの結果を抜粋して，報告する．

- 大学入学までにコンピュータを利用したことはありましたか？（あると答えた留学生：100%．日本人学生：97%, 2004 年；95%，2003 年）
- コンピュータの利用年数はどれぐらいですか？（１）1 年未満,（２）1 年以上 2 年未満,（３）2 年以上 3 年未満,（４），3 年以上 4 年未満,（５）5 年以上（留学生：3%, 3%, 3%, 12.5%, 78%, 日本人学生：8%, 11%, 15%, 14%, 50%, 2004 年；15%, 15%, 20%, 22%, 25%, 2003 年）
- 自宅（実家）にコンピュータをお持ちですか？（留学生：93.7%持っている．日本人学生：95%，2004 年；93%，2003 年）
- そのパソコンは，インターネットに接続されていますか？（留学生：86.7%接続されている．日本人学生：94%, 2004 年；93%，2003 年）

アンケートの結果を見ると，国際教養学部の留学生はパソコンに触れることが日本人学生と比べても少なくないことが分かる．

３．ガイド，WBT の対応

早稲田大学では数年にわたり，「PC・ネットワーク利用ガイド」という小冊子で，PC の利用法及び，情報を提供してきた．英語新入生セミナーで行ったアンケートの結果を受け、英語版「PC・ネットワーク利用ガイド」の内容も日本語版と同じ方針で作成することとした．（参考文献の[4]を参照）

英語版「PC・ネットワーク利用ガイド」が毎年 9 月に出版されることにともない、従来実施されている WBT を利用した情報倫理テストの問題文を見直すこととした．（参考文献の[3]を参照）英語版ガイドの出版に同期し，毎年の 9 月に出題の見直しを行うことにした。詳細解説文は「PC・ネットワーク利用ガイド」での記述をもとに，なぜ情報倫理が重要であるのか，どのように利用すべきであるのか，を解説している．さらにガイドの関連ページを参照することで，より詳しい理解ができるようにした．

４．まとめ

本稿では 2004 年度に本学で行われた新入生の留学生を対象とした英語新入生セミナーを紹介した。今後，日本語と英語でそれぞれ行われたセミナー，教材，WBT による情報倫理テスト間の連携をさらに深めることで，情報倫理教育における導入教育，継続的学習，不適切利用の発見，再教育というサイクルがより円滑に進展することを目指していきたい．

参考文献

[1] 大鹿智基，秋岡明香，川嶋健太郎，潘健民，「WBT を取り入れた新情報倫理教育－多様化する学生への取り組み」，2002 年ＰＣカンファレンス、早稲田大学

[2] 小野寺涼子，大鹿智基，秋岡明香，「情報倫理教育に重点を置いた新入生コンピュータセミナーの実践」，2003 年度情報処理教育研究集会，北海道大学

[3] 川嶋健太郎，三橋大輔，小野寺涼子，「新入生セミナー，ガイド，WBT を利用した情報倫理教育への取り組み」，2003 年度情報処理教育研究集会，北海道大学

[4] 佐々木康成・川嶋健太郎・小野寺涼子，「PC・ネットワーク利用ガイドにおけるユーザビリティの向上について」，2003 年度大学情報化全国大会